

2026年度 沖縄大学
学校推薦型選抜

「こども文化学科小論文」
問題用紙

2025年11月22日(土)
9:00～10:00

【小論文】

【設問】

次の詩は、沖縄出身の詩人山之口獺が 1940(昭和 15)年に発表した有名な詩「会話」です。(現代仮名と漢字に直してあります)

これは、どのような状況で誰と誰が行った会話なのでしょう？そして作者はどういった気持ちでこの詩を書いたのでしょうか？

あなたの想像力をはたらかせて 600～800 字で書いてください。(知識を問う問題ではありません)

お国は？ と女が言った

さて 僕の国はどこなんだか とにかく僕は煙草に火をつけるんだが 刺青と蛇皮線などの連想を染めて 図案のような風俗をしているあの僕の国か！

ずっとむこう

ずっとむこうとは？ と女が言った

それはずっとむこう 日本列島の南端の一寸手前なんだが 頭上に豚をのせる女がいるとか素足で歩くとかいうような 憂鬱な方角を習慣しているあの僕の国か！

南方

南方とは？ と女が言った

南方は南方 濃藍の海に住んでいるあの常夏の地帯 龍舌蘭（リュウゼツラン）と梯梧（でいご）と阿旦（アダン）とパパイヤなどの植物達が 白い季節を被って寄り添っているんだが あれは日本人ではないとか 日本語は通じるかなどと話し合いながら 世間の既成概念達が寄留するあの僕の国か！

亜熱帯

アネッタイ！ と女は言った

亜熱帯なんだが 僕の女よ 眼の前に見える亜熱帯が見えないのか！ この僕のように 日本語の通じる日本人が 即ち亜熱帯に生れた僕らなんだと僕はおもうんだが 酋長だの土人だの唐手だの泡盛だの同義語でも眺めるかのように世間の偏見達が眺めるあの僕の国か！

赤道直下のあの近所
